



と い で の

校訓 「自立・創造・敬愛」

4月1日よりホームページが移転・リニューアルしました。ブックマークの変更や再登録をお願いします。



高岡市立戸出東部小学校
令和5年9月13日発行

読書大好きな東部っ子に

校長 吉田 真寿美

私がかつて一緒に仕事をしたことがあり、現在も交流のある、千葉経済短期大学子ども学科長 横山 洋子先生より、戸出東部小学校のメディアホールに、先生が監修・解説された児童図書「オペラ座の怪人」を寄贈いただきました。横山先生は、幼児・児童向け図書の監修・解説、幼児教育書の監修・執筆、Yahoo!ニュースエキスパートコメンテーターも務めておられます。戸出東部小学校の子供たちが本を読んで豊かで優しい心を育てるように、との思いからのプレゼントでした。



そこで、図書委員長に事情を説明し、いただいた本を読んだ感想とお礼の手紙を書いてもらえないかと頼んだところ、快く引き受けてくれました。週末に本を読み、便箋いっぱい手紙を書いてきてくれました。早速、その手紙を送ったところ、横山先生は大変喜ばれ、程なくしてさらにもう一冊「美女と野獣」を送ってくださったのです。次は、副委員長に同じように頼むと、副委員長も快く引き受けてくれ、一晩で本を読み、感想とお礼の気持ちがたくさん詰まった手紙を書いてくれました。



横山先生が、これらの子供たちとの手紙のやり取りを、学研「10歳までに読みたい名作シリーズ」の編集者の方にも紹介してくださったところ、編集者の方が「戸出東部小学校の読書の盛んな様子が伝わってきた」と言ってくくださったそうです。戸出東部小学校の読書活動をそのように褒めていただき、大変うれしく思いました。

こうした読書好きな東部っ子は、どのようにして育まれてきたのか考えると、その要因は、メディアホールという環境と、学校司書の先生の支援と、図書委員会のアイデアにあるように思います。

4月の「新任式」「入学おめでとう集会」で、子供たちは新しく戸出東部小学校に仲間入りした先生方や1年生に、戸出東部小学校の自慢は「メディアホール」だと紹介していましたし、7月の「東部っ子子どもサミット」でも、6年生が戸出東部小学校のよさの一つとして「メディアホール」を挙げていました。

東部っ子にとって、メディアホールは大切な環境であることが分かります。玄関から入ってすぐの、学校の中心にメディアホールがあるということは、どの子供にとっても、本の存在が自然に目に飛び込んでくる絶好の読書環境になっているわけです。

そして、学校司書の先生が、季節感や子供たちの興味関心に応じたレイアウトで本を配置し、本を手に取りたくなる仕掛けを工夫しています。また、本に興味をもつようなメディアホールだよりが発行されています。さらに、子供たちが利用しやすいように、常に本の整頓がなされています。

図書委員会は、高学年の委員の子供たちがアイデアを出し合って、読み聞かせや、しおり作りのイベントを考え、行ってきました。2学期もまた、楽しい企画が提案され、東部っ子が本に親しむ機会をつくってくれることでしょう。

これらの好条件を生かし、さらに読書大好きな東部っ子になってほしいと願っています。

最後に、冒頭の横山先生からのメッセージです。

本を読むことが楽しくなると、子供の世界はどんどん広がりをもちます。「読まなくてはならないもの」ではなく、「人生が豊かになるものひとつ」として、ぜひ、親子で素敵な読書の時間を設けてください。

